

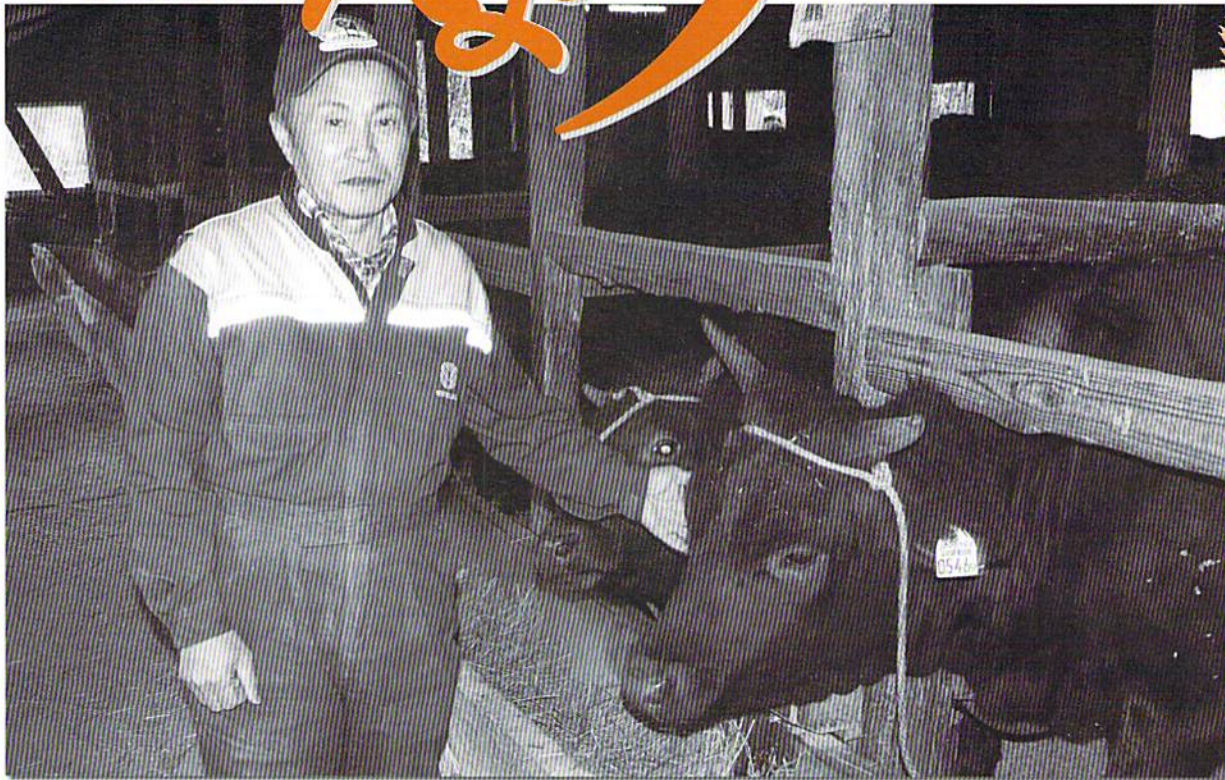
農家と農業委員会をむすぶ

あきたし

農委だより

第50号

編集 秋田市農業委員会
 住所 秋田市山王一丁目1-1
 TEL (018) 866-2270
 FAX (018) 866-2454



祝！全国和牛能力共進会第2位獲得！！

全国和牛能力共進会で第2位を獲得した高橋長寿さん

高橋長寿さん(上北手)は、河辺和田地区にある畜舎で和牛150頭余りを飼育している大規模畜産農家です。

昨年10月下旬に長崎県佐世保市で開催された和牛五輪とも言われる5年に一度の日本最大の和牛品評会「第十回全国和牛能力共進会」で3頭一組による枝肉の肉質を競う部門で、高橋さんから3人が出品した県有種雄牛「義平福」を父とする県産牛が「一頭から取れる肉の量が多く、上質なさし(霜降り)が入っている」として高く評価され、本県として過去最高の2位を獲得しました。中でも高橋さんが出品した牛の枝肉は最高級格付のA5と高く評価されました。

「これまで取り組んだ努力と苦労が実り、全国に誇れる成績が獲れてうれしい」と語った高橋さん。

この度の上位獲得は、県産牛肉の評判が全国に広がり、県内外からも多くの関係者が義平福の子牛を求め家畜市場を訪れ賑やかとなり、本県畜産業界の活性化につながる契機として大いに期待されます。

あきたし農委だよりは創刊から50号目を迎えました！

【本号の主な内容】

表紙	祝！全国和牛能力共進会第2位獲得	5ページ	農業活性化フォーラム	ほか
2ページ	新年のごあいさつ	6ページ	農業に関するイベント・地域の話	話題コーナー
3ページ	「人・農地プラン」作成に取り組みましょう！	7ページ	農業委員会・事務局からのお知らせ	
4ページ	あきたファーマーズアワード表彰式	8ページ	家族経営協定に取り組みましょう	ほか



新年のごあいさつ



秋田市農業委員会
会長 佐々木 吉秋



新年あけましておめでとう
ございます。

皆様には、ご家族おそろいで
お健やかに新年をお迎えの
こととお慶び申し上げます。

さて、我が国の農業を取り
巻く環境は、長引く経済不況
や社会情勢の変化により農産
物の消費や価格が低迷し、厳
しい経営環境が続くとともに
に、農家戸数の減少と農業従
事者の高齢化による担い手不
足の深刻化が著しい状況に直
面しております。

そのため政府は、農林漁業
再生のために、「日本再生戦
略」の重点分野の一つとして
農林漁業を掲げ、新規就農の
増大や農地の集積、六次産業
化等の施策を集中展開するこ
ととしております。

しかし、戸別所得補償制度
や青年就農給付金など、農業
経営の安定に結びつく制度が
充実しつつある中で、一方で
は、消費税率の引き上げやT

PPの事前協議への参加など
農業者の経営努力だけでは克
服しえない課題が押し寄せよ
うとしております。

このため、国には、現場の
声に耳を傾け、さらなる農業
経営の安定を図るために、戸
別所得補償制度や担い手の確
保・経営支援のさらなる充実
強化、消費税増税の転嫁対策
と軽減税率制度の創設、TP
Pへの参加方針の撤回、食の
安全・安心対策の推進など競
争力・体質強化に結びつく施
策の実現に取り組んでもらう
必要があることから、昨年11
月5日の秋田県農業委員大会
でもこのことを強く要請する
旨の決議をし、12月5日には
農業委員会系統組織として強
く国へ要請したところであり
ます。

また、持続的で力強い農業
の実現に向け、地域が抱える
担い手の確保や農地の問題に
ついて解決を図る「人・農地

プラン」の作成とその推進に
ついては、新たな農地制度の
下、農地転用規制の強化や遊
休農地対策、農地流動化の促
進等を中心的に担っている
我々農業委員会がますます重
要な役割を担うものであると
考えております。これまで農
業委員会系統組織が推進して
いる「地域の農地と担い手を
守り活かす運動」そのもの
が、「人・農地プラン」の達
成に直結するものであり、運
動の確実な実践と目に見える
成果を積み上げていくことこ
そが、我々農業委員会に与え
られた使命であり、その責務
を十分に果たして参りたいと
考えております。

結びになりますが、私たち
農業委員一同、より一層、地
域に根ざした活動に取り組ん
で参りますので、今後とも変
わらぬご理解とご協力をお願
い申し上げます、新年のご
あいさつといたします。

謹賀新年

謹んで新春のお慶びを申し上げ、
皆様の今年一年のご多幸をお祈り申し上げます。



会長 佐々木 吉秋
会長職務代理者
委員 菅原 正人

須磨 良郎 佐藤 磨 佐藤 善 佐藤 政 佐藤 金 小原 悦 安藤 清 佐々木 木 熊谷 尚 鈴木 久 鈴木 光 白岩 信 齊藤 五 嘉藤 月 小野 賢 小田 弘 土田 資 鈴木 隆 大友 昇 藤田 俊 佐藤 清 佐藤 義 稲垣 万喜夫 鈴木 金 相場 重 嗚峨 幸 奈良 一 川村 一郎 長坂 金 田近 正 菅原 正人

「人・農地プラン」作成に取り組みましょう！！

「人・農地プラン」は人と農地の問題を解決するための未来の設計図です。

今、私たちの地域・集落では、農業従事者の高齢化や後継者不足、遊休農地の増加など多くの課題を抱えております。5年後、10年後、私たちの地域・集落の農業や農地は誰が守っているのでしょうか。将来に備えて、人と農地の問題を一緒に考えてみませんか。農業委員会は市や関係機関と連携しプラン策定のお手伝いをいたします。

「人・農地プラン」の主なメリット

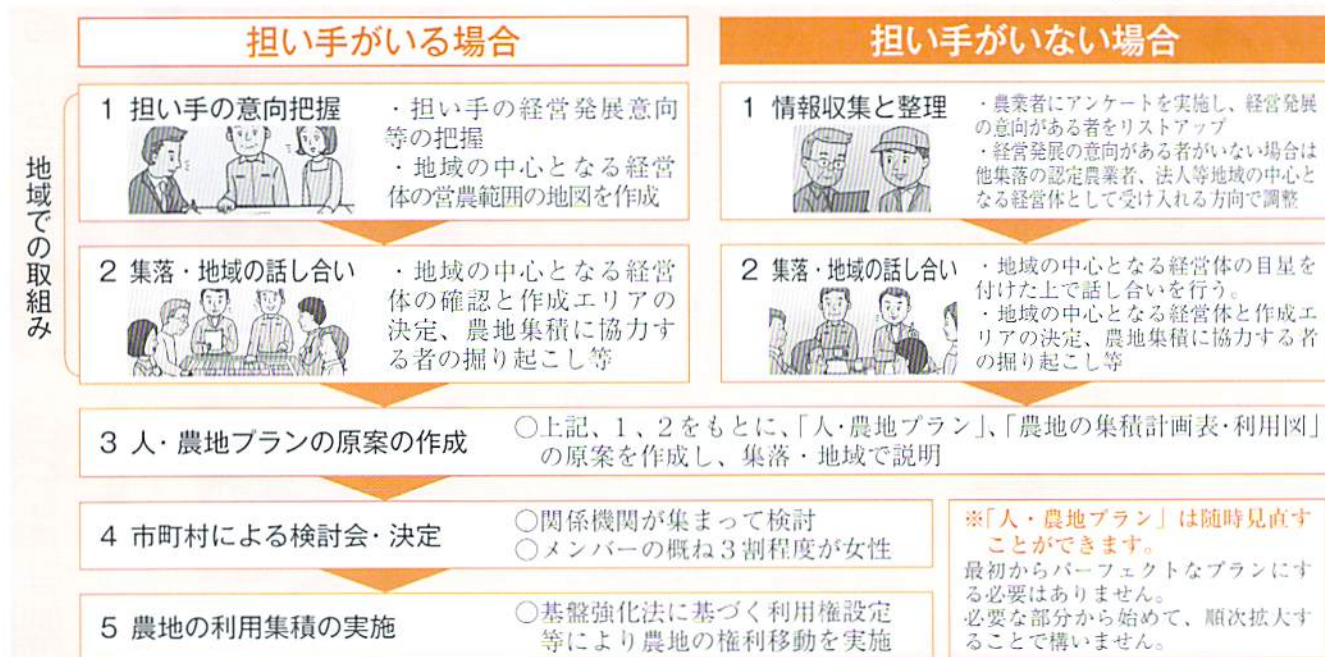
「人・農地プラン」は、地域の農業を担うやる気のある農業者を「地域の中心となる経営体」として位置づけ、支援していくものです。地域の農地を安心して任せられる仕組みを一緒に作っていきましょう。

農地集積協力金 (農地の出し手への支援)	地域の中心となる経営体に農地を貸す人には、一定の条件のもとで、面積に応じて農地集積協力金が支払われます。「もうそろそろ田んぼをやめようかな」という方は、ぜひご相談ください。
戸別所得補償の規模拡大加算 (農地の受け手への支援)	戸別所得補償制度加入者が、一定の条件のもとで、円滑化事業によって面的集積するために、新たに利用権設定(設定期間6年以上)をした場合は、10アールあたり2万円が農地の受け手に支払われます。
青年就農給付金 (新規就農者への支援)	45歳未満の新規就農者が地域の中心となる経営体に位置づけられると、一定の条件のもとで、年間150万円の給付金を最長5年間受けることができます。「うちの息子が戻ってきて農業をやると言っているが、対象になるか？」という方もお問い合わせください。
スーパーL資金の無利子化 (担い手への金融支援)	認定農業者が地域の中心となる経営体に位置づけられるなど、一定の条件のもとで、貸付5年間金利が実質無利子となります。

※農地の出し手への農地集積協力金と、受け手への規模拡大加算の対象となるには、当事者同士で貸し借りを結ぶのではなく、秋田市を通じて手続きを進める必要があります。



「人・農地プラン」作成の手順(全体の流れ)



※「人・農地プラン」は随時見直すことができます。最初からパーフェクトなプランにする必要はありません。必要な部分から始めて、順次拡大することで構いません。

【人・農地プランに関するお問い合わせ】

秋田市農林部農業農村振興課 (TEL 866-2116) または各地区農業委員、農業委員会事務局まで

ベストファーマーズ部門

最優秀賞 佐藤 俊一郎 様 (上新城)



水稲単一(種子生産)経営の
佐藤俊一郎さん

による規模拡大、作業の効率化を図り安定的かつ堅実な経営を実践し、長年におたり優良種子の生産に尽力されており、ます。上新城耕壌会副組合長などの各種農業団体の要職を務め、地域農業発展にも貢献されております。

大規模な水稲単一経営による主に種子生産を行っている専業農家です。これまで作業受託

あきたファーマーズアワード表彰式 及び農政協力員の集いを開催

11月22日、秋田ビューホテルにおいて「平成24年度あきたファーマーズアワード表彰式及び第33回農政協力員の集い」を開催し、優秀農家、こども絵画入賞児童および農政協力員永年勤続者の皆様を表彰いたしました。受賞された皆様、誠にありがとうございます。



11月22日 受賞者の皆様との記念撮影

パフォーマンス部門

優秀賞 フレッシュランドまごころ 様 (河辺)



「フレッシュランドまごころ」会員の皆さん

地域の活性化と農家を元気にするために河辺和田地区に直売所と農家レストランを設置し、直売や加工品の提供、各種イベントなどの活動を展開しています。河辺地区農業者全体で早くから六次産業化を実践し、地域の活性化と農業振興に大きく貢献されている団体です。

父から経営移譲を受け、現在は、経営主として施設野菜栽培と水稲栽培の経営を実践する若手農業者です。施設野菜栽培は春菊を年間7回転栽培し、ハウレンソウを冬期対策として栽培するなど安定的な栽培方法を確立し、収益性の高い農業経営確立を目指し活躍しております。



水稲と施設野菜経営の
中島胤美さん

ニューパワー部門
優秀賞 中島 胤美様 (飯島)

地域住民総ぐるみの手で地域資源や環境を守る「農地・水・環境保全活動」を展開しております。共同活動による草刈り・泥上げ・清掃・植栽・生物の生育把握などの活動を実践し、農地の保全と農村集落の活性化に大きく貢献されている団体です。



「飯田・長野みどり会」会員の皆さん

ファームランド部門
優秀賞 飯田長野みどり会様 (飯島)

農政協力員永年勤続表彰
十年以上、農政協力員を勤めていただいた方々です。

- 保坂 健治 様 (外旭川)
- 鈴木 英弘 様 (太平)
- 山下 良博 様 (上北手)
- 山岡 誠一 様 (下浜)
- 佐藤 長喜 様 (金足)
- 熊谷 一郎 様 (仁井田)

- 大谷 紘希さん (東小1年)
- 菅沼 里瑚さん (上新城小1年)
- 山本 千尋さん (秋大附属小2年)
- 西村 綸里さん (仁井田小3年)
- 長坂 大樹さん (上新城小4年)
- 齊藤 冬星さん (上新城小4年)
- 渡辺 陽菜さん (戸島小5年)
- 福田 康平さん (泉小6年)

特別賞

梅林 果琳さん (広面小4年)



タイトル
「わあい、どうもろこしがとれた！」

最優秀賞

鈴木ちえりさん (飯島小3年)

こども絵画部門

農業活性化フォーラムを開催

8月9日、秋田ビューホテルで「平成24年度秋田市農業活性化フォーラム」を開催し、農家等55名が参加しました。

今年「農地と次代を担う若い農業者を守る」をテーマに、第1部として、秋田地域振興局農林部農業振興普及課の加藤政尚課長から、「秋田県の家族経営協定の現状について」と題しご講演いただき、第2部の意見交換会では、「本市農業の担い手対策の方策を探る」をテーマに、参加した若手農業者等の皆さんの視点から本市農業の担い手の現状についてご意見をいただきました。

今回のフォーラムでいただいた意見や要望等を踏まえ、秋田市農業委員会では、農業者の利益代表機関として、農業がやりがいと魅力のある産業として持続的な維持・発展を遂げていくことができるよう9月27日に市長へ建議・要望をしております。



基調講演「秋田県の家族経営協定の現状について」



意見交換会「本市農業の担い手対策の方策を探る」

市長に建議・要望書を提出

9月27日、「活き活き農業専科」や「農業活性化フォーラム」などで寄せられた農家の皆様からの意見を取りまとめ、建議・要望書を、市長に提出しました。内容は次のとおりです。



9月27日市長へ建議要望書提出

◎建議事項

- 1 戦略的で多様な農林水産ビジネスの展開について
- 2 農業生産指導体制の強化について
- 3 ニーズに対応する生産・供給体制の確立について
- 4 本市農林水産業振興予算の確保並びに農業委員会の体制強化について
- 5 女性・青年農業者等の農業委員登用について

◎国・県への要望事項

- 1 新たな農業政策について
- 2 TPP交渉等への対応について
- 3 米生産数量目標の格差解消について
- 4 経営安定対策の充実・強化について
- 5 耕作放棄地解消への支援について
- 6 農畜産物の安全・安心の確保について
- 7 災害に対する支援について

◎市への要望事項

- 1 担い手・後継者の育成・確保・支援について
- 2 安全・安心な市内農産物の提供について
- 3 産地づくりのための支援策について
- 4 平成25年度市単独土地改良事業等の推進について
- 5 放射性物質の検査への対応について

秋田県農業委員会大会

11月5日、能代市にて、第56回農業委員会大会が開催され、県内農業委員約600名が出席しました。

大会では、小場興志雄農業委員（広山田地区担当）が、秋田県農業会議会長表彰を受賞されました。また、「農業経営



表彰を受けた小場興志雄委員

安定と体質強化に向けた施策の実現に関する要請」などの大会議案3件が、原案のとおり承認されました。

農地パトロール(利用状況調査)を実施

10月22日から10月26日にかけて農地パトロール(利用状況調査)を実施し、遊休農地や低利用となっている農地の状況把握を行いました。

今後、この調査を元、各地区の農業委員による所有者等への農地利用の意向確認等を行い、遊休農地解消のための指導を行って参ります。



10月22日 第2選挙区農地パトロール

農業に関するイベント・地域の話題コーナー

丹精込めた農産物などが一堂に！

雄和女米木地区産業文化祭



11月3日 雄和女米木地区産業文化祭

今年、100点ほどの農産物が出品され、午後からの表彰式では、受賞者と品物が発表されるたびに、参観者から「たいしたものだ。」とうなずく姿が見られました。全長約70mの長芋などが市長賞に輝きました。

雄和女米木地区の産業文化祭が11月3日、女米木同栄会（会長 石井菊男さん）の主催で開催され、地元農家の皆さんが丹精込めて生産した野菜、果物などの農産物が出品されました。この産業文化祭は、今年で34年目を迎え、一年の収穫の成果と感謝を込めて毎年行われております。



地元農家の農産物がずらりと並び

農業体験学習！園児が稲刈り体験



9月27日 今年も園児の田んぼは大豊作!!



園児たちの田んぼは、今年も黄金色の稲穂がたわわに実る大豊作となり、さわやかな秋空の下、園児たちは手慣れた手付きで稲刈りを楽しみました。

9月27日、飯島のけやき平幼稚園の園児たちが、5月に園児が田植えをした農業委員の須磨さんの田んぼで稲刈り体験を行いました。



高校生が市内農産物を使った商品を開発！ 「17歳の6次産業化プロジェクト商品発表会」

11月23日、高校生が市内産農産物を使って商品を開発する「17歳の6次産業化プロジェクト」の商品発表会が秋田キャッスルホテルで開催され、プロジェクトに参加した金足農業、秋田商業、秋田工業の各高校30名の生徒が、3校で連携し開発したトマト、枝豆、米粉などを使ったパンやデザートなどの五つの商品をお披露目しました。プロジェクトは、市の6次産業化推進事業の一環として、6月にスタート。金足農業が商品に使う素材の選定、秋田商業が市場調査などによる商品の選定、秋田工業がパッケージやロゴなどのデザインを担当し、約半年間かけて商品の開発に取り組んで来ました。プロジェクトを終えて秋田商業3年の田中あゆみさんは、「大変な時もありましたが、完成した商品が店頭で並ぶのがとても楽しみです。多くの皆さんに食べてもらえることを期待します。」と抱負を語りました。



6次産業化プロジェクトに取り組んだ生徒の皆さん



【お披露目された商品】

右上から時計回りに、リンゴジュースに米粉の団子が入った「ぶちっとチュー米」、加工用トマトを使ったババロアの「とまるあ」、米粉の団子にカボチャと枝豆のあんをかぶせた「ずんちゃ」、枝豆と米粉の生地に、カボチャ、枝豆、トマトミートソースのあんが入った「枝豆こまちパン」、枝豆と米粉の生地に、カボチャとトマトミートソースのあんが入った中華まん風の「まめだるま」。

情報をお待ちしております!!

「あきたし農委だより」に掲載する農業に関する地域のイベントや取り組み等の情報を募集しております。掲載を希望する情報等がございましたらお近くの農業委員または農業委員会事務局までお知らせください。

◆農業委員会・事務局からのお知らせ◆

農業委員会委員選挙人名簿の登録申請書を忘れずに提出しましょう

平成25年1月1日現在で農業委員会委員選挙人名簿の登録資格の調査を行います。登録から漏れると資格があっても投票権がなくなり、耕作証明書等の交付も受けられませんので、忘れずに登録申請をしましょう。

《調査方法》

- ①申請書は郵送、または農政協力員を通じて12月末までに配布します。
- ②10アール以上の農地を耕作して業務を営む全ての農家および農業生産法人が対象となりますので、必要事項を記入してください。
- ③1月5日(土)まで、お近くの農政協力員へ届けてくださるか、農業委員会事務局に返送してください。

《資格要件》

- 1月1日現在で秋田市に住所を有し、3月31日現在で、満20歳以上の方で、次のいずれかに該当する方
- ①10アール以上の農地を耕作して業務を営む方
 - ②上記①と同居している親族とその配偶者で、年間60日以上耕作に従事している方
 - ③10アール以上の農地を耕作して業務を営む農業生産法人の組合員、社員または株主で、年間60日以上耕作に従事している方

上記の資格要件を満たす方で、お手元に申請書が届いていない方は、農業委員会事務局、河辺市民サービスセンター産業・建設担当(TEL882-5161)または雄和市民サービスセンター産業・建設担当(TEL886-5545)にご連絡ください。

農地情報について

これまで「あきたし農委だより」に掲載してきた「農地情報」は、秋田市農業委員会ホームページに掲載することといたしました。農地を売りたい貸したい方、買いたい借りたい方は、農業委員会にご相談ください。

【アドレス】

<http://www.city.akita.akita.jp/city/coag/noutijoho/default.htm>



掲載されている農地の詳細等は、農業委員会事務局までお問い合わせください。

「活き活き農業専科」を開催します。1月中旬から、各地区農業委員主催による特別相談会「活き活き農業専科」を市内7地区で随時、開催してまいります。この「活き活き農業専科」は、農地等の売買や貸借、農地転用、農業者年金、農業制度資金等、日頃、農家の皆様が思っていることに対し、地元農業委員や担当職員がご相談に応じる特別相談会として開催するものです。開催日時、詳細等につきましては、各地区農業委員または農政協力員等を通じて、随時お知らせいたしますので、皆様のご参加をお待ちしております。

「活き活き農業専科」を開催します。

農地の効率的な利用に対する助成制度について

秋田市が「貸し手農業者」と「借り手農業者」との間に立って協議調整をはかった農地で、面的集積により効率的な利用が促進され、一定の条件を満たした場合、農地の面積に応じた国や県等による助成制度があります。助成要件など詳しい内容につきましては、秋田市農林部農業農村振興課(電話866-2116)までお問い合わせください。

農業委員のご逝去のお知らせ

11月12日に河辺岩見三内地区担当石塚隆委員がご逝去されました。

慎んで、ご冥福をお祈りいたします。石塚委員は、永きにわたり、農地の利用調整などに精励され地域農業の振興・発展に寄与されました。また、平成20年7月から一期三年間、会長職務代理者として会長を補佐し、農業委員会の運営に多大なご尽力なされましたことに対しまして感謝申し上げます。

なお、この度のご逝去に伴い、岩見三内地区全域を、佐藤金正委員が、担当いたします。

私たちも実践しています！ 家族経営協定！



下新城地区
鎌田 均 さん
ご 夫 婦
瞳 さん

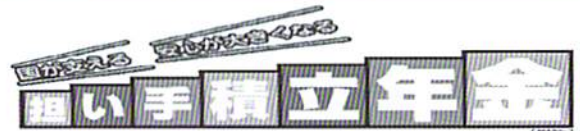
水稲と梨などの複合経営に取り組んでいる鎌田均さん、瞳さんご夫婦。
家族経営協定は、平成20年に妻の瞳さんが女性農業者になったことをきっかけにご夫婦で締結しました。
協定を締結して「経営内容について話をするようになった」とのこと、協定を活かし、仕事にメリハリをつけています。
「楽しんで作物を作っています。販売や販売先などもっと勉強していきたい。」と意欲を語る瞳さん。協定を活かし夫婦二人三脚でがんばっておられます。

家族経営協定に取り組みましょう！

「家族経営協定」とは、家族で取り組む農業経営について、家族全員が意欲とやりがいを持って経営に参画できる魅力的な経営を目指すために、経営や生活・将来の目標（経営の目標・役割分担・収益の配分・生活上の諸事項など）について、家族みんなで話し合い、確認したことを「ルール」として文書化することです。そして、協定を家族みんなで行い、見直しを図ることによって、農業経営改善につながる有効な手段です。また、認定農業者、農業改良資金、農業者年金等の制度上のメリットもあります。秋田市農業委員会では、家族経営協定締結のためのお手伝いをさせていただいております。
ぜひ、「家族経営協定」に取り組んでみませんか？

農業者年金に加入しましょう！

農業者年金は老後生活が がっちりサポートします！



農業者年金は、農業者の「老後生活の安心と安定」を図るために創設された積立方式の年金制度です。農業者年金加入で老後の備えをより充実させませんか。

農業者だけが加入できる 農業者年金には多くのメリットが！

- 少子・高齢時代に強い積立方式の年金です！
- 終身年金で80歳までの保障付です！
- 支払う保険料は全額保険料控除！
- 手厚い政策支援で保険料の国庫助成もあります！

次の要件を満たしている方であれば、誰でも加入できます。また配偶者や後継者など家族も加入することができます。

- ①60歳未満の方
- ②国民年金1号被保険者
- ③年間60日以上農業に従事している方

保険料、支給額等もっと農業者年金制度について詳しくお知りになりたい方は、農業委員会事務局またはお近くの農業委員までお気軽にお問い合わせください。

本号で取り上げました「人・農地プラン」は、将来の集落や地域の具体的な農業のあり方を考え「人と農地の問題」の解決を図るために非常に重要なものがあります。
農業委員会の活動は、プラン策定に重要な役割を果たすものと考えておりますので、市や関係機関と連携し、プランの策定と推進に努めて参ります。



農政専門委員長
嵯峨 重美

編集後記



暮らしと経営に役立つ農業情報のほか、農村女性や若い青年農業者の活躍など元気あふれる情報をお届けします。

経営と暮らしに役立つ情報が満載!!

- ・発行日 毎週金曜日
- ・購読料 1ヶ月600円 (送料込み)
- ・お申込 秋田市農業委員会事務局へ